

題「今日、わたしと一緒に」

姫路あけぼの教会 廣田守男

「イエスは、『はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる』
と言われた。」(43)。

(ルカによる福音書 23 章 3～43 節)

◎ 皆さんおはようございます。姫路あけぼの教会の牧師廣田守男です。

主イエス・キリスト様は、今年の暦では 4 月 2 日（木曜日）の夜、弟子たちと「最後の食事」をされた後、ゲツセマネの園で祈っておられた時、12 弟子の一人イスカリオテのユダに先導された役人達に逮捕され、夜中の裁判を受けられ、3 日（金曜日）の朝、死刑と断罪されたのです。そして「されこうべ（ゴルゴダ）と呼ばれている所」(32, マタイ 27:33) で午前 9 時に十字架に架かって処刑され、午後 3 時に心臓破裂によって息を引き取られましたのです。その後、イエス・キリストのご遺体はアリマタヤのヨセフの手によって墓に葬られたのです。

◎ 当時のローマの総督ポンテオ・ピラトは裁判の席上で主イエス様に対し 3 回無罪を宣言しました(ルカ 23:14, 15, 22)。それにも関わらず、ピラトは祭司長たちと指導者たちと民衆の要求に従い、バラバを赦し、主イエス様に死刑の判決を下し、その執行を命じたのです。

◎ その結果、主イエス様は真ん中の十字架に、その両側に犯罪人が磔にされたのです。主イエス様は十字架上で 3 回「もし神からのメシア（キリスト）油注がれた者なら自分を救うがよい」と民衆によって罵られ、また兵士たちによっても罵られ、更に犯罪人の一人からも罵られたのです(ルカ 23:35, 37, 39)。正に弱い者いじめの典型的な姿です。犯罪人たちも指導者たちや兵士たちと共に初めは主イエス様に対して罵っていたのです(マタイ 27:43)。

◎ そのうち一人の犯罪人が主イエス様に悪口を言っているのに対し、もう一人の犯罪人は他の犯罪人をたしなめたのです。自分たちが罪を犯した結果、処刑されていることの当然さを語ったのです。「罪は必罰」です。しかし、「この方は何も悪いことをしていない」と言って、主イエス様の無罪を主張したのです。その上で主イエス様に「イエスよ、あなたの御国においでになるときは（お着きになるときは）、私を思いだしてください」とお願いしたのです。この犯罪人は自分の罪を悔い改め、正しい御方である主イエス様に信頼したのです。

◎ 主イエス様は犯罪人に「あなたは今日、わたしと一緒に（共に）パラダイス（樂園）にいる」と約束されたのです。犯罪にはその瞬間からイエス様と共に、主イエス様に守られ支えられて天の三国に迎えられていったのです。主イエス様の救い、助け

は今日与えられるのです。

◎ かつて天地創造の時、アダムとエバは楽園と言われたエデンの園(創世記 2:8)に住んでいたのです。しかし二人とも神様にそむいた罪の故にエデンの園から追放され、荒野をさまよう流浪の人生を歩む者となってしまったのです(3:34)。しかし、主イエス様はご自分の十字架のご犠牲(贖い)により楽園を回復する道を開かれたのです(黙示録 2:7)。「荒野をエデンの園とし、荒地(砂漠)を主の園とされる。そこには喜びと楽しみ、感謝の歌声が響く」(イザヤ 51:3)との約束が主イエス様の十字架の功により成就されたのです。人間的に見ればあれすさんだ、砂漠のような孤独の中にも決して一人ではない、神様が共に歩んでくださり、人に理解されない喜びと感謝を持って日々の生活を送る者に変えられるのです。しかもその恵みは「きょう」与えられるのです。「今日、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」(ルカ 2:11)、また「この聖書の言葉は、今日、あなた方が耳にしたとき、実現した。」(4:21)、「今日、驚くべき事を見た」(5:26)。「今日、救いがこの家を訪れた」(19:9)。「今や、恵み時、今こそ、救いの日」(コリント② 6:2)と聖書のみ言葉に語られている通りにです。私たち一人一人も主イエス・キリスト様に信頼して何時もイエス様が私たちと身近な関係で共に歩んでくださり、この地上でそれぞれの人生を主と共に歩み、それぞれの生涯を全うし、その暁に天の御国に迎えられていく歩みと変えられてゆくのです。犯罪人と同じように主イエス様に対して「わたしを忘れないでください。わたしを覚えていてください」と訴えることにより「今日、主イエス様が共に歩いてくださる」新しい歩みに入られますようにと願っております。(日ノ本学園高等学校チャペル礼拝説教)